



“木を植えて 育てて活かす 緑の力” をあなたの手で!!

平成23年度 しずおか森林写真コンクール 「最優秀賞」作品



■表紙写真 題名:間伐 撮影場所:浜松市天竜区東雲名 撮影者:伊藤 正義 氏(浜松市)

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL: <http://www.moritohito.jp>

- 2 首長は語る (No.27)
「富士山と共に歩む 水と緑の国際文化都市」
- 3 支部だより①
木材利用による林業、漁業、観光業の振興
- 4 支部だより②
人と緑・産業が未来を育むまち、菊川
- 5 県庁だより①
消滅の危機に瀕する高山植物

- 6 県庁だより②
「森林資源の活用」と「人づくり」
- 7 森林・林業研究センターだより (NO.73)
富士山のツキノワグマ
- 8 本部情報
【関東甲静地区の治山林道協会との連携】
- 8 事務局だより

別冊折込

平成23年度しずおか森林写真コンクール入賞作品

首はる 長語

● No.27



「富士山と共に歩む 水と緑の 国際文化都市」

富士宮市長 須藤 秀忠



町づくり 五つのビジョン

富士宮市は日本一の富士山がある町で、素晴らしい自然や豊富な水に恵まれており、市民はこの地に生まれた幸せを感じて生きています。ですから、「富士山に負けないような町づくり」を目指して5つのビジョンを掲げています。

一つ目は、思いやり、やさしさ、人としての道徳心、そういった「人情のある有徳の町づくり」です。

二つ目は、水、植物、土などの自然を活かした庭園都市のような「こだわりの魅力ある美しい町づくり」です。

三つ目は、企業が元気に活動できる町、おいしい食の町など、夢や希望のある「活力と豊かさのある元気な町づくり」です。

四つ目は、太陽光発電など新エネルギーの推進、医療では市立病院や救急医療センターの充実、そして、幼児や乳幼児が安心して遊べる小さな公園の整備など「環境・医療・福祉の充実した安心安全な町づくり」です。

五つ目は、納めた税金が市民の為に有効に活用できる「財政が安定し自立した町づくり」です。

つまり、「住んでよし 訪れてよし」、「生んでよし 育ててよし」、「学んでよし 働いてよし」の「富士山と共に歩む 水と緑の国際文化都市」を目指しています。

富士山世界文化遺産登録に向けて

9月に、国からユネスコへ富士山世界文化遺産登録の推薦状が出されました。市内には、構成資産が6つと一番多く有りますから、静岡県側の中心として登録活動を積極的に推進する使命があります。

今年4月に市長になって世界遺産推進室を設置し、8月には全庁的な「登録推進本部」を立ち上げ、構成資産の環境整備や来訪者の受け入れ態勢整備等に取り組んでいます。

例えば、大勢の人が観光に来る場合に備えて、駐車場やトイレの整備、ホテルの誘致、そして、空き店舗を活用した「歴史のギャラリー」や「屋台村」のような受け皿づくりです。この屋台村は、若い人の起業に向けた3年間位の準備道場にして、成功したら町中の空き店舗でやってもらう、今、そんな計画も練っています。

森林がもたらす恵み、命の水と富士ヒノキ

当市には富士山の湧水がありますが、これは森林によって養われた命の水です。森林は、国土保全上大きな役割を果たしていますし、また、市民の憩いの場として生活を潤してくれますから、非常に有り難いですね。

昨年、富士流域の事業計画が国の森林・林業再生プランの実践モデル地区に採択され、欧州型の機械作業システムが展開可能かどうかの実証のために、利用間伐163ha、路網開設27kmが実施されました。この事業に関わっていただいた富士森林組合が、施業の集約化を図った富士森林再生プロジェクトや県の森づくり県民税による事業をうまく使って大いに頑張っています。

しかし、台風15号で林道が壊滅的に被災してしまい、一日も早く復旧しなければ林業そのものが駄目になってしまいますので、職員総動員で対応しています。とにかく林道を整備して、列状間伐などダイナミックな伐採方法で、人件費のかからない林業をやらないと駄目です。

また、富士ヒノキの強さと美しさを活かすため、地域材を使った木造住宅の取得に、簡単な事務手続で助成する制度を検討させています。



▲白い絹糸のように細く流れ落ちる白糸の滝

富士宮やきそばを世界へ

実は、私の子供の頃は、下町には子供相手のやきそば屋が何百軒もありました。そんな下地を活かして「富士宮やきそば」をうまく広げたのは、渡辺英彦君とか「やきそば学会」の力です。勿論、手軽で安くて美味しいですが、富士宮を知ってもらいたいという気持ち、それが色んな人の共感を得たのではないかと思います。

先日、震災に遭われた岩手県の山田町と大槌町で、1000食焼いて皆さんにプレゼントして来ました。皆、「うまい。うまい。」と喜んで貰いましたので、自信をもって、今度は、ニューヨークやローマなど、世界中に広めたいです。

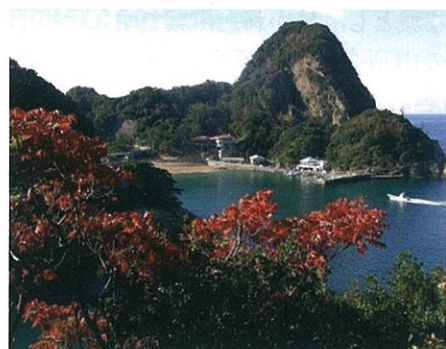


▲行列ができる人気の富士宮やきそば

支部だより①

木材利用による林業、漁業、観光業の振興 ～間伐材漁礁の設置～ 松崎町 産業建設課

松崎町 産業建設課からは、「森林施策」、海洋資源の確保と森林整備を連携させた「間伐材漁礁」について語っていただきました。



▲雲見漁港

松崎町の概要

伊豆半島西海岸の南部に位置する松崎町は、北に西伊豆町、東は河津町と下田市、南は南伊豆町に接し、北・東・南の三方を天城山系に囲まれ、西は駿河湾に面しています。海岸線は、国立公園区域や国の名勝地に指定され、町内にはなまこ壁の建物や漆喰鍍絵の名工伊豆の長八の作品を展示する美術館、重要文化財岩科学学校、那賀川沿いの6km1,200本の桜並木や大規模花畑など名所旧跡も多く残っており、変化に富んだ景観と豊かな自然、湧出する温泉も豊富で、伊豆西南海岸の産業、交通、観光の拠点となっています。

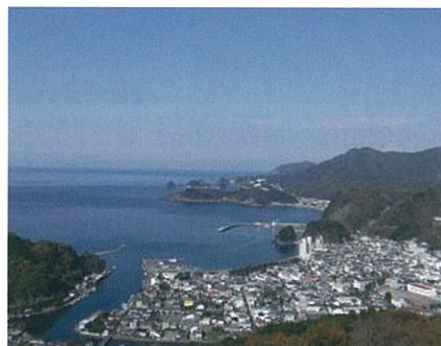
総面積約8,500haのうち、森林面積は84%（約7,200ha）を占めており、海・山・川の豊かな自然と温暖な気候に恵まれています。町では「平成の花とロマンの里づくり」をシンボルテーマに、地域の特性を生かした個性豊かな魅力ある地域づくりを推進し、「豊かな自然と文化の薫るまち」を目指しています。

松崎町の森林施策

町の林業を取り巻く情勢は依然として厳しいものの、海岸沿いに植生して

いる松に対して、病虫害防除のための薬剤の散布、樹幹注入を毎年行っているほか、平成21年度～平成23年度までの三ヶ年で町有林を中心とした人工林約80haの間伐を実施するなど、森林の保護、整備に積極的に取り組んでいます。

また、自然豊かな松崎町では、森林が住民の生活と深く結びついており、森に親しむ場、憩いの場として「富貴野山21世紀の森」、「牛原山町民の森」において展望台やアスレチックなどの自然公園としての整備がされているほか、長者ヶ原等の遊歩道の整備もされており、地域住民だけでなく、多くの観光客の心を癒しています。



▲牛原山からの眺望

更に、平成21年度には新規事業として間伐材を利用した漁礁を海岸沖に設置するなど、木材を利用した林業、漁業、観光業等の多業種の活性化を推進しています。

間伐材漁礁

松崎町では平成21年度に国の交付金事業を活用し、町内産のスギでつくった間伐材漁礁10基を町内の岩地、雲見両海岸の沖合100m、水深15mの海底に設置しました。



▲魚礁

漁礁はコンクリートの台座にスギの丸太を三角形に組んだ「やぐら」を乗せ、スギの生木20本を直立にくくりつける形で製作しました。

平成22年6月にダイバーによるモニタリング調査を行ったところ、設置位置の移動、立木の流失などの異常は見られず、アジ、マダイなどの魚影のほか、アオリイカが産み付けた卵塊も確認され、その効果が実証されました。

間伐材漁礁の設置は森林整備を図ると同時に海洋資源を増やすといった林業と漁業の活性化を狙いとしていましたが、雲見地区はダイビングスポットでもあり、地元ダイビング業者が間伐材漁礁群を新たなダイビングスポットとして活用するなど、観光業の振興にも繋がっています。

町では引き続き平成23年度において10基の漁礁を増設し、更なる林業、漁業、観光業の発展に寄与することを期待しています。

松崎町にお越しの際は、松崎の新鮮な海の幸を是非ご賞味いただき、自然公園で雄大な自然に抱かれ、ダイビングで魚たちとの遊泳を楽しみ、身も心もリフレッシュされてはいかがでしょうか。



▲魚礁に群れる魚

支部だより②

人と緑・産業が未来を育むまち、 菊川

菊川市 農林課

豊かな自然に恵まれ、「深蒸し茶の里」として知られる菊川市は江戸時代の「黒田家代官屋敷」等が残る、歴史の町でもあります。農林課から観光スポットを紹介していただきました。

菊川市は、静岡県の中西部、静岡市と浜松市のほぼ中間に位置し、みどり豊かな自然環境と都市機能が共存するまちです。

市域は、東西約9km、南北約17kmで、面積は94.24km²です。

東には、明治初頭の大規模開拓により形づくられた「日本一の大茶園」牧之原台地が広がり、「お茶のまち 菊川」としても広く知られています。

JR東海道本線菊川駅、東名高速道路菊川ICなどを有し、新幹線掛川駅に近接するなど交通の要衝となっています。また、「富士山静岡空港」の開港や御前崎港の整備により、交通の結節点としてさらに利便性が高まり、将来に向け大きく発展することが期待されています。

牧之原大茶園

牧之原大茶園は、海拔約200m、遠く霊峰富士山を望み、北には南アルプスの支脈栗ヶ岳を控えた5,000haの広さを誇る東洋一の大茶園です。

明治2年の大政奉還により徳川旗本番組250人と相良勤番組の武士によって開拓が始められ、苦心の末現在の大茶園の基を築いたと言われています。

5月の八十八夜の季節には、緑のじゅうたんを敷きつめたような色鮮やかなお茶の新芽が広がります。

ここで摘み取られた新芽は、豊かな香りと、まろやかでコクのある風味、ノンカロリーでヘルシーな「深蒸し茶」となります。

菊川市特産の「深蒸し菊川茶」は色合い深く、まろやかな味わいは、太陽

の光をいっぱい浴びる、この地方ならではの味です。

大学などの研究では、お茶の成分や効能に関わる研究が盛んに行われ、ガンの抑制、成人病予防、ウイルス感染予防などに効果のあるカテキン、βカロチン、γアミノ酪酸（GABA）などがたくさん含まれていることから健康飲料として注目されています。また、ビタミンC、Eも多く含まれ、美容や老化抑制にも効果があるとされています。

このように体に良いとされる成分を多く含む「深蒸し菊川茶」をご愛飲いただき、元気な日々をお過ごしいただきたいと思います。

火剣山

火剣山は、標高282m、菊川市の北端にあり、駐車場から登ること約15分、山頂の東の峰には遠州七坊のひとつ火剣坊大権現を祀り、西の峰には展望台があります。展望台からは、眼下に大茶園を望み、南に遠州灘、西は浜松市街、北は南アルプスの支脈栗ヶ岳、東は牧之原台地と、360度のパノラマが広がります。



▲火剣山（キャンプ場）

古くから山腹が急峻なことで知られる火剣山周辺は、山菜が豊富で、春先

にはタラの芽やワラビをはじめ、ゼンマイ、フキなどを求めて多くの人々が山に入ります。

また、火剣山参道入り口を左に下ると、バンガローやキャンプサイト、シャワー室、共同炊事場、トイレが整備された「火剣山キャンプ場」があり、バーベキューやハイキング、お花見などが楽しめます。

横地城跡

横地城は、室町時代初期に横地氏の本城として築かれた山城です。尾根上の山頂を中心に「東の城」「中の城」「西の城」を構え、土塁、堀切、曲輪等を配し、築造当時の面影を残している全国有数の城跡として知られています。

また、県立自然公園に指定された付近一帯には、桜や笹ゆりをはじめとした、野生植物、野鳥などの自然も豊富に残っています。



▲横地城跡

黒田家代官屋敷

黒田家代官屋敷は、昭和48年、江戸時代末期の代官屋敷の佇まいがよく保存されているとされ、長屋門と母屋が国指定重要文化財となり、平成5年には米蔵・東蔵・濠を含めた、屋敷全体が追加指定されました。

母屋は、現在も住居として使われており、立ち入りに制限がありますが、2月上旬から3月上旬の梅の季節には、庭園を開放して、梅祭りが開かれています。



▲黒田家代官屋敷

県庁だより①

消滅の危機に瀕する高山植物

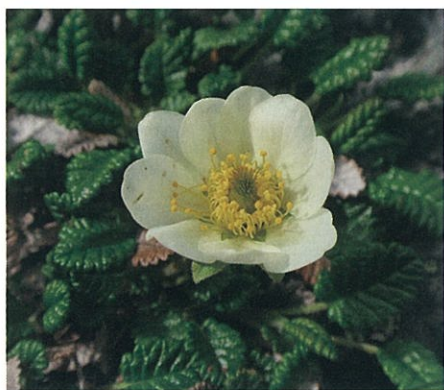
くらし・環境部 環境局 自然保護課

自然保護課からは、高山植物の現状、ボランティアとの協働による保護活動、今後の課題について語っていただきました。

希少な高山植物

高山帯には、「お花畑」と呼ばれる植物群落が存在し、その中には、「周北極植物」と呼ばれる高山植物も多く存在しています。この「周北極植物」は、アラスカや北極域周辺に分布していた植物が過去の何回かの氷河期に、日本列島まで分布を拡大してきたと考えられています。そして、今から1万年ほど前に氷河期が終わり、気温が上昇するにつれ高山や亜高山等の気温の低い箇所に局所的に生き残ったと考えられています。

長野県、山梨県、静岡県に跨る南アルプスには、これら「周北極植物」の南限にあたる種が多く生育しており、学術的価値が非常に高いと言われています。県内では、南アルプス南部の光岳に生育する、チョウノスケソウ(図-1)等が該当し、北極点に近いスバル諸島でも、ほぼ同じ種を観ることができます。



▲図-1 チョウノスケソウ

ニホンジカによる過剰な採食圧

現在、南アルプスでは1990年代末頃から、「お花畑」の衰退や消失といった深刻な事態が報告されるようにな

り、その後、被害は10年間で急速に拡大し、深刻化しています。これは、ニホンジカによる過剰な採食圧が原因と考えられており、全国各地でも類をみない速度で進んでいて、今後も拡大する可能性が高いと言われています。

県内でも、塩見岳のお花畑が消失(図-2、3)、聖平、三伏峠、茶臼岳等のお花畑も大きく衰退する深刻な事態となっています。



▲図-2 塩見岳 (S54.7 増沢)



▲図-3 塩見岳 (H22.7 鶏飼)

高山・亜高山を構成する植物は環境の変化に対して脆弱であり、さらに過去においてニホンジカの採食による影響をほとんど受けていないと考えられており、一度衰退するとその回復に長い年月を要します。このニホンジカによる不可逆的な影響を防止するために早急な対策が求められています。

ボランティアによる高山植物保護活動

県では、山岳団体等から構成された「南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク」との協働により、平成14年に聖平に防鹿柵を設置したのに続き、三伏峠、茶臼岳へも設置しました。この防鹿柵は、高山特有の冬季の多雪や低温により損傷するため、毎年の維持修繕活動が欠かせません。この維持修繕活動もボランティアの手により行われており、献身的な活動は今年で10年を迎えました。その間、南アルプスではボランティアとの協働による保護対策は広がり、山梨県では、日本第2の標高を有する北岳で、長野県では仙丈ヶ岳や聖岳の北西に位置する兎岳で防鹿柵が設置され、ボランティアの手により管理されています。

今後の課題

高山帯の岩場などで、いくつかの幸運な条件が重なって植物が生育可能となった場所を「レフュージア(避難地)」と呼びます。ボランティアにより設置された防鹿柵も、ニホンジカの過剰な採食圧から逃れるための避難地と言えるかもしれません。

この防鹿柵の効果は絶大で、柵の内外を比較すれば一目瞭然(図-4)です。しかし、現地は3,000m級の高所であり、設置作業等は人力で行われています。また、南アルプスは稜線部だけでも、約3万6千haあり広大なため、対策は進んでいません。更に、資材運搬はヘリコプターを用いるため費用は高額です。



▲図-4 防鹿柵内外の植生(聖平周辺)

このように、課題は山積ですが、美しい南アルプスを次世代に引き継ぐために、今後も対策を続けて参ります。

県庁だより②

「森林資源の活用」と「人づくり」 ～第36回全国育樹祭まであと1年！～

交通基盤部 森林局 全国育樹祭推進課

平成24年秋に本県で開催される第36回全国育樹祭。開催まで1年となりました。
全国育樹祭推進課から祭典の内容を紹介して頂きました。

開催方針

森林資源の活用とそのための人づくりの大切さを、大会の開催を通じて全国へ発信します。大会テーマ（標語）は「木を植えて 育てて活かす 緑の力」です。

お手入れ行事

「親が植え、子が育てる」という世代を越えて、健全な森林を引き継ぐことの大切さを伝える全国育樹祭のシンボリックな行事です。全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を、子孫にあたる皇族殿下がお手入れ（枝打ち、施肥など）されます。

式典前日の土曜日に、伊豆市のあまぎの森で開催します。



▲先催儀の様子

(皇太子殿下による森林土壌生成促進剤の御配布 (第32回愛媛県大会))

式典行事

皇族殿下御臨席のもと、殿下よりお言葉を賜るほか、森林・林業・緑化等に功績のあった方々の表彰や、全国から選抜された緑の少年団の活動発表、県にゆかりのある苗木の贈呈などを行います。また、開催方針に沿ったメインテーマアトラクションを披露し、県内外から来場されるお客様に楽しんでい

たきます。

日曜日に、エコパアリーナで開催します。



▲愛媛式典

育樹行事

来場する参加者全員が、施肥などの育樹活動を行います。

第36回全国育樹祭では、お手入れ会場である「あまぎの森」と、式典会場である「エコパ」とに分かれて活動していただく予定です

併催行事

【育林技術交流集会】

森林・林業技術者や森林ボランティア

アなどを対象に、講演会や事例発表などを行い、参加者同士の情報交換と互いの向上を目指します。

【全国緑の少年団活動発表大会】

全国から選抜された5つの緑の少年団が、日頃の自分たちの活動を発表します。

また、代表として県外から参加する緑の少年団と、県内の緑の少年団が交流を深める、交流集会も開催します。

記念行事

【森林・林業・環境機械展示実演会】

森林・林業・環境関係の機械・機器メーカーから最新の機械・機器が集合し、実演を交えた展示会を開催します。

第36回全国育樹祭では、全国初の試みとして、式典行事と同じエコパで行うことで、式典やおもてなし広場などに来場する、普段林業機械などに触れる機会のない方にも興味を持っていただけるような行事を目指しています。

日曜日と月曜日の2日間、エコパグラウンドで開催します。

【県民参加型おもてなし広場】

県内外から来場する参加者をおもてなしするため、式典会場周辺のエントランス広場に様々なブースを出展します。

第36回全国育樹祭では、式典に参加される方だけでなく、県民に広く開放し、大勢の方に楽しんでいただくエリアとする予定です。

また、お手入れ行事を開催する伊豆市にも、サテライト会場を設置します。

◆◆◆記念行事・1年前プレイベントを開催します！◆◆◆

10月29日（土）に開催した、「国民参加の森林づくりシンポジウム」と「親子で体験！木とのふれあい広場」に続き、今月、11月27日（日）には、1年前プレイベント第3弾「山の日の集い」を開催します。

目玉企画として、森林・林業機械の展示・実演会を行います。普段なかなか見ることができない、最新鋭の林業機械が実際に林内で作業する様子もご覧いただけます。林業の先進性や機械化の効果が実感できますので、ぜひご来場ください！

日時 平成23年11月27日（日） 9:00～14:00

会場 天城ふるさと広場（伊豆市上船原）

内容
・森林・林業機械の展示・実演会
・世界チャンピオン城所ケイジ氏によるチェーンソーカービングショー
・東京楽竹団ライブ（竹楽器演奏）
・林業関係の物販、展示、体験コーナー



▲伐倒、枝払、玉切の一連作業ができる最新の林業機械

ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ 大場 孝裕



▲捕獲後、麻酔処置してGPS首輪を装着した個体3（メス58kg）

絶滅の恐れのある富士山に生息するツキノワグマの行動調査について報告していただきました。

制限)を行っていく必要があります。

9～12月の個体4の活動は、4から7月に比べて夜行性の傾向が強くなり、人間を避け夜間に堅果類の採食を行っていると思われました。3頭とも、ゴミや農作物、宿泊遊園施設内の集中利用等、人間との接触が懸念される行動は確認されませんでした。

おわりに

富士地域に生息するツキノワグマの保護には、ミズナラが多く人間があまり利用しない広葉樹林と、樹洞など好適な冬眠場所の維持、創出が重要と考えられました。

富士山南麓には、登山道、遊歩道、宿泊遊園施設があり、入山者、利用者は、鈴の携行やゴミ・残飯に餌付けさせないといった対策を意識する必要があります。

今回1頭も捕獲できなかった愛鷹山塊は、富士地域のツキノワグマ生息地の中で特に孤立化が心配されるため、センサーカメラ等による生息確認調査を今後も行っていく必要があります。

はじめに

富士地域のツキノワグマは、静岡県版レッドデータブックで「絶滅のおそれのある地域個体群」として位置づけられています。孤立化が進む地域個体群の保護と、入山者の多い富士山での人身事故回避等の対策を講じていくためのデータとして、ツキノワグマの行動を追跡しました。

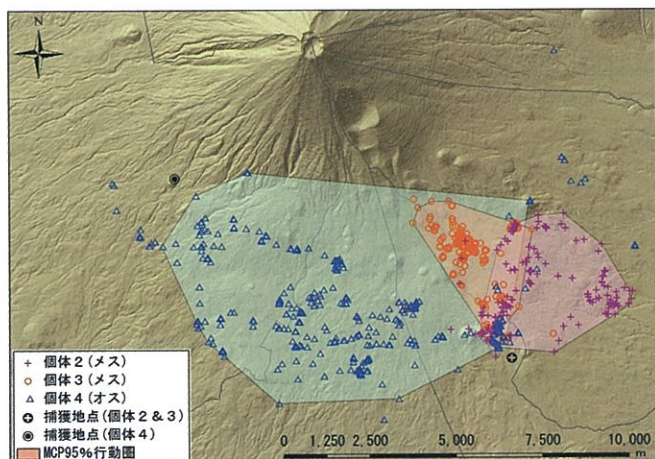
調査方法

2009年7～9月に富士山南麓7カ所、愛鷹山塊5カ所にドラム缶わな（バレルトラップ）を設置しました。富士山麓で351トラップ日（捕獲檻の延べ稼働日数）、愛鷹山塊で320トラップ日の捕獲努力を掛け、富士山麓でオス2頭、メス2頭を捕獲しました。愛鷹山塊では捕獲できませんでした。捕獲個体は麻酔処置し、詳細な位置情報を記録できるGPS首輪を装着して放獣しました。その後、個体の探索と、GPS首輪に蓄積された位置データの回収を行いました。

調査結果の概要

オス1頭、メス2頭の位置データが回収できました。オスの行動圏（最外郭法（MCP）による95%行動圏面積54.1km²）は、メス2頭（12.3km²、7.8km²）よりも広く、富士山南西斜面～東斜面の落葉広葉樹林帯を利用していました。3頭の行動圏は重なっていて、秋に位置が重なった場所はミズナラの多い林でした。

個体2（メス）は、傾いた木の浮いた根元など冬眠場所を4カ所も変えていました。個体3（メス）も傾いた木の浮いた根元で冬眠していました。個体4（オス）は、溶岩樹型の中で冬眠していました。冬眠期間（2009～2010年）は、個体2が12月26日から5月5日、個体4が12月16日～4月21日でした（2011年も4月22日に冬眠していた溶岩樹型から出てきました）。ツキノワグマが活動する期間は、この地域で人間の活動量が多くなる期間でもあり、ツキノワグマが生息していることを意識した森林の利用（あるいは利用



▲富士山南麓におけるツキノワグマ3頭の行動範囲



▲冬眠していた溶岩樹型から出てきた個体4（オス）

本部情報

【関東甲静地区の治山林道協会との連携】

山林協会は、県土保全と山村振興を目指して、普及啓発や人材育成に力を注いでおりますが、その効果を最大限に発揮するために、県内及び全国の関係団体と緊密に連携した活動も行っております。

その連携団体の一つ、関東甲静地区1都8県の治山林道協会は、連絡協議会を設けて情報交換や政策提案を行っておりますが、今年は本協会が連絡協議会の当番を努めましたので、その活動を紹介します。

*意見交換 ～東日本大震災を教訓に～

6月23、24日、掛川市内に各都県協会、中央協会、林野庁及び静岡県の関係者を招いて、総会を開催しました。



▲「総会 質疑応答」

各都県は、国土保全と森林整備が最重要課題であり、そのためには「治山、林道事業のより一層の推進と予算枠の

大幅拡大が必要」と、異口同音に訴えておりました。

また、特に今年は東日本大震災を教訓に、「地震関連の予防治山や治山・林道施設の防災点検の新規事業の創設」、「治山施設や林道橋梁の維持管理の充実」、更に、「災害時の計画から設計に即時に対応できる技術ネットワークの構築」が喫緊課題であることを確認して、後日、国へ提案することで一致しました。



▲「総会を終えて報徳社にて記念撮影」

*歓迎講演 「木の文化のまちづくり」

総会に引き続き、遠路掛川にお越し頂いたことから、本協会副会長の榛村県森連会長様から、かつて掛川市長として推進された「木の文化のまちづくり」を講演して頂きました。



▲「榛村県森連会長による講演」

講演では、生涯学習や報徳思想から始まり、掛川城天守閣の本格木造復元と木造図書館の建設、新幹線掛川駅の設置と木造駅舎の保存、駅前33種の街路樹と城下町風まちづくりなど、榛村様の木の文化に注いだ熱い想いが伺えました。

とりわけ天守閣復元の際に、国に建築基準法を改正させるに至ったご苦労話が、皆さんの心に深く残ったようでした。

*林野庁への要請活動

8月31日、各都県協会の役員の皆様と共に、平成24年度の事業展開に向け、上記確認事項を林野庁へ要請しました。

生憎、会議のため林野庁長官や次長には会えませんでした。治山、林道事業の責任者である黒川治山課長と肥後整備課長にはお会いして、要望書を手渡すことが出来ました。

両課長とも、忙しい時間を割いて熱心に話を聞いて頂き、新年度予算に反映すべく検討する旨の回答を頂きました。



▲「林野庁にて要望書を手渡し」

事務局だより

* 晩秋に入り、文化の日を迎えました。秋、文化と続けば、なぜか、菊の大輪が脳裏に浮かんできます。

菊は、鎌倉時代の初めに後鳥羽上皇が自らの印に愛用したことから、天皇や皇室の紋に定着したとの旨。

また、日本そのものの象徴として、勳章やパスポートに、そして、身近な50円硬貨にも使われています。まさに、菊は日本を代表する花ですね。

* 花と云えば、「昨日に優る今日の花」と、よりよいもの、より美しいものへと、「人の心とは移ろい易いもの」の例えに使われます。

また、「花は折りたし 梢は高し」と、手に入れたいと願っても、思い通りにならない例えにも…。

菊は栽培技術が進んで年中手に入りますが、秋に咲く菊は一段と香りが深い様な気がします。これが「匂」と云うことでしょうか。

* 食材も、匂のものが好いですね。

松茸、秋刀魚、新米…。口に含んだ途端に、新たな時季を迎える至福に誘ってくれますから。

そして、先達が植えた杉や桧も、見事に成熟して匂になりました。

さあ、菊の大輪を飾るに相応しい「白木の住まい文化」を、もう一つの日本を代表する山、富士山の郷から日本中に拡げませんか。(小松)

平成23年度 しずおか森林写真コンクール入賞作品



間伐

伊藤 正義 (浜松市)

撮影地：浜松市天竜区東雲名

最優秀賞



審査講評

審査委員長

三井 章二

今年は昨年を上回る256点の応募がありました。森林写真のコンクールが一般の方にも関心を持たれるようになって応募数が増えたことは喜ばしいことです。作品の内容も森林の景観からレクリエーション等幅広い分野にわたっております。その中で今年は丸太を扱った作業風景の写真に優れたものが見られました。また、巨木や秋の紅葉、森に咲く花など興味深い作品も沢山ありました。

最優秀賞の静岡県知事賞には、浜松市の伊藤正義氏の「間伐」が選ばれました。間伐材の集材作業風景です。材木の小口を手前に大きく扱って丸太を強調し、バックに森林を配置して現場

の状況を説明しています。ピント、露出は勿論、構図も整った立派な作品です。

特選の山林協会賞の2点には、静岡市の永田勇氏の「高きき校林」と浜松市の青嶋隆男氏の「製材所のプロ」が選ばれました。

「高きき校林」は、外国の写真かと思わせるようなエキゾチックで面白い作品です。高い木はラクウショウのような外来種でしょう。見事に高い外路樹を見事に捕らえた作品です。

「製材所のプロ」は、チェーンソーを持つプロ職人の、動きや響きが伝わってくるような写真です。職人がプロなら写したカメラマンもプロです。年輪を重ねた立派な丸太が高く積まれた材木置き場の様子もよくわかり、無駄なくまとめられた作品です。

準特選には5点が選ばれました。静岡市の井田愛子さんの「ファンタジックな森の中」、浜松市の小松原清氏の「秋の彩り」、静岡市の大塚美代子さんの「山里」、静岡市の山田英雄氏の「積み荷を終えて」、静岡市の望月正晴

氏の「松林を害虫から守る」の5点です。

「ファンタジックな森の中」は、霧に覆われた森林に行く数人の人達、何をしているのか分からないが、森林が幻想的で目を引きました。めったに出会わないチャンスをものにしており、映画の一齣の様な美しい作品です。

「秋の彩り」は、森林公園で遊ぶ子供達を配した紅葉の作品です。鮮やかな色彩が目には染みます。紅葉の写真は逆光でも美しい写真が撮れます。また挑戦してみてください。

「山里」は、柔らかに写しだされた里山と、手前に広がる沢山の丸太とがマッチして一幅の絵になっています。里山、丸太何れか一方だけでは迫力に乏しくなりますが相乗効果で立派な作品になりました。

「積み荷を終えて」は、長年苦勞して育てた材木が、いよいよ日の目を見る日がやってきました。やっと積み終えて街に出発するトラックを、桜の花も満開で拍手を送っています。明るい素晴らしい作品です。

「松林を害虫から守る」は、海岸の松林は、陸地の人や畑を守るために古くから大事に育てられてきました。ところが半世紀程まえからセン虫によって全国的に松が枯れ始めました。この松を守るためにセン虫を媒介するカミキリ虫を殺すために薬剤散布が行われています。この写真はその状況を記録した貴重な作品です。

その他、入選に20点が選ばれました。どれも力作ぞろいでした。

かつてよく応募された、治山事業等の現場写真が、すっかり影を潜めてしまいました。災害の多い昨今です。国土保全や治水のための工事や現場写真にも挑戦して応募してください。

また、次回も多数の応募を期待して講評とします。



特選

高きき校林 (こうりん)

永田 勇 (静岡市)
撮影地：静岡市清水区



特選

製材所のプロ

青嶋 隆男 (浜松市)
撮影地：浜松市天竜区春野町



準特選

ファンタジックな森の中

井田 愛子 (静岡市)
撮影地：富士市大淵



準特選

秋の彩り

小松原 清 (浜松市)
撮影地：浜松市浜北区 森林公園



準特選

山里

大塚 美代子 (静岡市)
撮影地：宇津の谷峠



準特選

積み荷を終えて

山田 英雄 (静岡市)
撮影地：静岡市葵区六郎木



準特選

松林を害虫から守る

望月 正晴 (静岡市)
撮影地：静岡市清水区三保



入選

夕映えの紅葉林

綾木 恵子 (静岡市)
撮影地：修善寺町



入選

弘法杉

深沢 真 (下田市)
撮影地：松崎町



入選

小國神社の御神木

杉浦 芳男 (浜松市)
撮影地：周智郡森町一宮



入選

山峡の秋

黒田 浩二 (島田市)
撮影地：静岡市葵区梅ヶ島



入選

深山に咲く

小菅 久平 (藤枝市)
撮影地：愛鷹山



入選

老樹を守る

森 勇 (静岡市)
撮影地：島田市大代



入選

供養

鈴木 信子 (周智郡森町)
撮影地：森町大日山



入選

神の宿る木 (3枚組)

野口 幹生 (川崎市)
撮影地：島田市千葉山



入選

静かな森

村上 雅己 (静岡市)
撮影地：島田市



入選

桃の花が咲く頃

石神 俊一 (焼津市)
撮影地：島田市伊久美



入選

原生林の華

渡辺 玲子 (賀茂郡松崎町)
撮影地：伊豆市 伊豆山稜線



入選

樹々に彩り

小南 康男 (駿東郡長泉町)
撮影地: 伊豆市天城



入選

遂に巨木にマイタケ発生

秋山 富雄 (磐田市)
撮影地: 浜松市天竜区



入選

自然との共生

諸星 定夫 (小田原市)
撮影地: 河津町



入選

森に生まれる

勝亦 道子 (富士市)
撮影地: 富士宮市 西白塚



入選

出番待ち

筒井 みち子 (静岡市)
撮影地: 藤枝市岡部町



入選

森の妖精たち

小野 弘夢 (名古屋市)
撮影地: 浜松市北区



入選

森を潤って

橘 初雄 (神戸市)
撮影地: 安倍川上流



入選

天竜材即売会2

大杉 巖 (浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区



入選

育て大きくまっすぐに

武智 一雄 (伊東市)
撮影地: 伊豆市湯ヶ島 天城